

2 とちぎの文化創造プロジェクト

1 プロジェクトの概要

(1) 目標

- 豊かな自然や歴史の中で培われた本県独自の伝統文化や文化活動を保存・継承していくとともに、東京オリンピック・パラリンピックの開催等を契機に積極的な活用・参加と国内外への発信を推進することにより、地域の活性化を図ります。

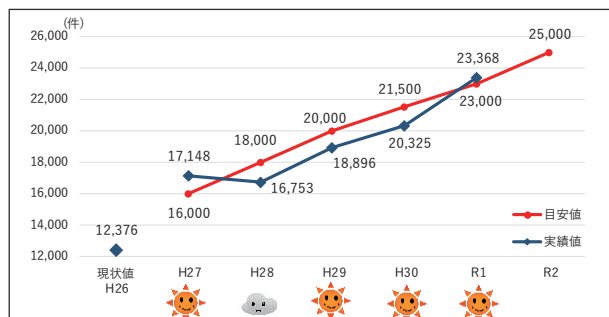
(2) 重点的取組

- ☆ 伝統文化等を通じた世代間・地域間交流の促進
- ☆ 文化・芸術に親しむ環境づくり

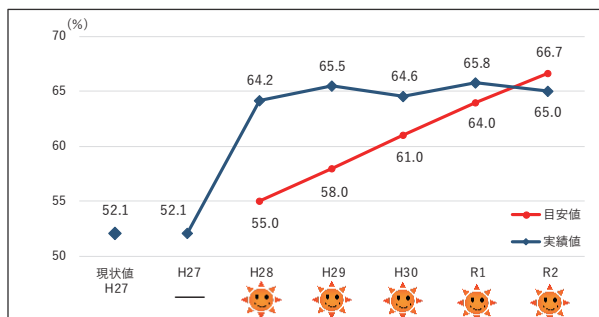
2 プロジェクトの進捗を表す成果指標等の状況

① 「とちぎの文化財」・「いにしへの回廊」

ホームページへの年間アクセス件数



② 文化・芸術活動参加率



(注) 達成見込の判断



概ね順調



やや遅れている



遅れている

○ 成果指標の分析

- ① 「いにしへの回廊」ホームページの充実を図るとともに、SNSにより周知したことなどにより、年間アクセス件数は上昇傾向で過去最高となっています。
- ② 県有文化施設等や県内各地での様々な文化イベントの開催など、県民が身近に文化を鑑賞・発表する機会が増加していることも一因となって、文化・芸術活動参加率は、平成28(2016)年度以降ほぼ横ばいで推移しています。

3 県民満足度調査の結果

	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)
満足・やや満足の割合	32.1%	38.1%	36.3%	32.2%	26.7%
やや不満・不満の割合	12.1%	12.4%	15.3%	14.9%	12.7%

4 主な取組成果

① 伝統文化等を通じた世代間・地域間交流の促進

▷ 世代間や地域間の積極的な交流

- 高校生が本県の伝統文化等について学ぶ機会の確保
 - ・ とちぎの歴史や文化を学ぶための資料集「とちぎから見る世界と日本」を活用した授業のほか、総合的な探求の時間や特別活動における伝統文化に関する体験活動の充実
- 貴重な伝統文化を継承する後継者の確保・育成
 - ・ 文化振興基金の活用による地域の伝統的行事等の保存・継承活動への支援
- 各種媒体を活用した魅力ある文化財情報の発信
 - ・ 「とちぎ文化情報ナビ」による各種情報（イベント、施設、活動団体等）の一元的な発信
 - ・ 「いにしへの回廊」のホームページで新規テーマでの特集ページの追加や「とちぎの文化財」ホームページでの新規指定文化財情報の掲載
 - ・ イベントや講座等を活用した「いにしへの回廊ルートマップ」の配布を始めとする文化財情報の提供
 - ・ フェイスブックを活用した親しみやすく積極的な情報発信
 - ・ フェイスブック応援団による県民協働での文化財の魅力・情報の発信及び応援団現地交流会による団員や文化財の所在する地域との交流

② 文化・芸術に親しむ環境づくり

▷ 県民の文化活動や学習活動の支援

- 学校における文化・芸術活動の充実
 - ・ 特別活動等での学習や文化部活動、芸術家を学校に派遣する「文化芸術による子供の育成事業」を通じた伝統や文化を理解し尊重する態度の育成
 - ・ 芸術家を学校に派遣する「文化芸術による子供育成総合事業」を通じた伝統や文化を理解し尊重する態度の育成
 - ・ 埋蔵文化財センター等の展示や出前授業等を活用した「本物」に触れる体験学習の充実
 - ・ 児童生徒の文化に対する理解・関心を深めるための伝統芸能や演劇等の巡回公演による文化鑑賞の機会の提供
- 美術館、博物館、総合文化センター等における優れた芸術鑑賞機会の提供
 - ・ 県総合文化センターでの優れた芸術家の鑑賞会の開催
 - ・ 県民が身近に文化に触れられるよう、美術館・博物館での充実した常設展や企画展の開催
 - ・ 芸術活動の発表の場等としての栃木県芸術祭の開催による県民の文化活動への参加促進
 - ・ マロニエ県庁コンサートの開催による若手演奏家を中心とした発表の場の提供
 - ・ コンセール・マロニエの上位入賞者等の小・中学校への派遣による新進演奏家の鑑賞機会の提供
- 地域の芸術家や若手アーティストの育成支援
 - ・ ジュニアピアノコンクールの実施
 - ・ コンセール・マロニエの実施
 - ・ ワガノワ・バレエ留学生オーディションの実施
 - ・ プロの演奏家が高校の合唱・吹奏楽・器楽・管弦楽部を指導するマロニエサウンドクリニックの実施
- 東京オリンピック・パラリンピックに向けた「とちぎ版文化プログラム」の策定・展開
 - ・ 統一テーマを「情景」とし、県民の日記念イベントにおける昭和の生活文化を体感できる企画展示等の実施、日本遺産に認定された那須野が原に焦点を当てた企画イベントの開催、美術館・博物館と連携した企画展の実施
 - ・ 文化振興基金を活用した「ローカルプロジェクトモデル事業」の実施による地域が主体

- ・となって取り組む文化活動の促進
- ・beyond2020プログラムの認証及びbeyond2020プログラム「とちぎ版ロゴマーク」の活用促進
- ・「とちぎ文化情報ナビ」の運用及び県内の文化資源の動画コンテンツを動画共有サイト等で提供する「とちカルMOVIE」の配信や美術館・博物館におけるタブレット等を活用した文字ガイドの提供
- ・新たな芸術分野における人材育成を目的とした「メディア芸術コンテスト」の実施、25歳以下の若手芸術家の活動を奨励するため栃木県芸術祭における「U25賞」部門の設置
- ・とちぎ子どもの未来創造大学「とちぎ版文化プログラム特別講座」の開設

5 総合評価

① 伝統文化等を通じた世代間・地域間交流の促進

▷ 世代間や地域間の積極的な交流

- ・とちぎの歴史や文化を学ぶための資料集「とちぎから見る世界と日本」を活用した授業を始め、「総合的な探究の時間」や「特別活動」の時間等における地域の素材や環境を積極的に活用した学習を通して、高校生の地域に伝わる伝統文化等への理解が深められています。
- ・「いにしへの回廊」及び「とちぎの文化財」のホームページ充実やフェイスブックによる情報発信、更には県民との協働により文化財のPR等を行う「文化財応援団」などの取組を行った結果、令和元（2019）年度のホームページのアクセス件数が平成26（2014）年度に比べ約1.9倍となるなど、本県の文化財等への理解や関心が高まっています。

② 文化・芸術に親しむ環境づくり

▷ 県民の文化活動や学習活動の支援

- ・芸術家を学校に派遣する「文化芸術による子供育成総合事業」等を通して、児童生徒の豊かな感性を育む機会を提供することができました。文化庁関係事業の更なる活用の推奨に努めながら、児童生徒の芸術鑑賞機会の確保を図っていきます。
- ・埋蔵文化財センターの利用者は、一般公開を開始した平成27（2015）年度以降は平成26（2014）年度の約3倍で推移しており、その半数を小中学生が占めるなど、子どもたちに「本物」に触れる機会を提供できたものの、利用者数はここ数年横ばいで推移しています。
- ・文化振興基金を活用した民間団体等の文化事業に対する支援等により、県内各地において多様な文化活動が展開されてきています。また、各種文化情報を一元的にホームページで提供する「とちぎ文化情報ナビ」の開設など県民が気軽に文化情報を入手できる環境が整備されたこと等により、県民の文化・芸術活動参加率は、平成28（2016）年度以降ほぼ横ばいで順調に推移しています。
- ・美術館・博物館については、創意工夫を図りながら企画展等を開催しているほか、ワークショップや移動博物館等積極的に普及活動等にも取り組んでいます。美術館については、入館者数がここ数年伸び悩んでいるため、関連イベントの実施や効果的な情報発信等、より多くの県民に興味関心を持ってもらうための更なる工夫が求められるとともに、開館から48年が経過し、施設・設備の劣化が著しく、展示・収蔵環境の悪化など機能面での課題も生じています。
- ・若手アーティストについては、各種コンテスト入賞者に対する県内での公演機会の提供等により育成を図っています。一方、地域における文化芸術活動については、活動メンバーの高齢化や担い手不足に悩む活動団体も多いことから、新たな担い手の確保・育成が課題となっています。
- ・「とちぎ版文化プログラム」の展開については、年度毎の統一テーマに基づく県主導による県庁・県内各地で企画イベント等の実施や、地域が主体となって取り組む分野・地域間の連携による文化活動を支援する「ローカルプロジェクト事業」の実施等により、地域の特色を生かした文化活動が県内各地で拡がりを見せてきたところであり、東京2020大会、さらにその先の国体・全国障害者スポーツ大会を見据え、全県的な文化振興に向けた機運を一層高め、地域の活性化につなげていくため、継続的な対応が求められます。